

# 緒 言

広島大学文学部が、広島市中区東千田町にあった戦前の広島文理科大学以来の旧キャンパスから現在の東広島キャンパスに移転したのは、平成6年（1994年）3月末のことで、今からちょうど20年前でした。奇しくも私は学部移転とともに着任したので、新キャンパスでの20年間の歩みを振り返ると、いささかの感慨があります。

文学部の移転時は、統合移転事業が半ばを過ぎたあたりの頃で、新キャンパスはまだ開発途上にあり、あちこちに荒れ地や広々とした更地があって、周辺には農地が広がっていました。赴任前の2月に初めて新しい勤務地を訪れた私は、寒風吹きすさぶ荒涼とした風景を見て、まるでシベリアに流されて来たかのような思いにとらわれました。初期の頃はキャンパス内に出没する野犬に恐怖を感じたり、研究室に学生が靴につけて持ち込む泥の始末に悩まされたりもしました。

しかし、それも今は昔の話、移転の完了とともに次第にキャンパスは整備され、図書館や食堂、多目的ホールなど学内の諸施設も充実してきて、豊かな自然の中でのびのびと勉学に励むのにふさわしい環境となりました。周囲の学生街も徐々に整ってきて、利便性の高い学生生活を送ることができる町に変貌しました。20年前の不便を思うと隔世の感があります。

このような理想的とも言える環境の中で、我々教員はゆったりとした気持ちでしっかりと研究や教育に打ち込み、実り多い学究生活を送ることができているかと言うと、残念ながららさにあらず、日々雑務に追われるばかりの、およそ研究者らしからぬ暮らしを余儀なくされています。

国立大学が法人化されてからの最も大きな変化は、学問の特性とは関係なくあらゆる分野における競争原理の導入と、時代に即応した不断の改革が求められるようになったことでしょう。前者は、基盤研究費を毎年削減するから研究者は自ら競争的資金を獲得すべく奮励努力せよ、後者は、グローバル化社会にかなった目立つ改革をせよ、さもなくば予算はやらぬぞとの大号令です。かくして学者は矜持を捨てて研究費を無心する書類作りに知恵を絞り、執行部は予算が欲しいばかりに教育効果などはろくに考えず秋入学やら4学期制やらの導入に先陣を切るぞと雄叫びをあげる。人は金で動くと同じ、鼻先に金をちらつかせて従わせようとする行政手法のこの国では、人はパンのみにて生きるものにあらずという究極の真理を探究する人文学の学者も、踊らされ続けなければならないようです。

本号は、2編の投稿論文と連載2編の計4編、そのすべてが日本文学語学関係というさびしい内容になりました。これが上記のような大学の置かれた状況がもたらした結果だとすると余りにさびしい。

アベノミクス効果による円安のせいもあって外国人観光客が増加し、平成25年に厳島を訪れた人の数が400万人を越えて史上最高を記録したそうです。世界文化遺産厳島は世界中の人々の関心を呼んでいます。厳島を中心とした内海文化の地道な研究がグローバル化社会に逆行するものであるはずはありません。我々は誇りを持って内海文化研究を進め、世界に発信していくべきでしょう。

ということで、がんばりますので、どうか予算を付けてください、お願いします。

平成26年3月

広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設  
施設長 妹尾好信

# 目 次

緒 言

岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿(3)

－社会科学、自然科学、技術・工学、産業の部－……妹 尾 好 信…… 1

山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（九）……久保田啓一・蔵本 朋依…… (31)

林芙美子の南京視察旅行……陳 亜 雪…… (13)

永代美知代の少女小説にみる〈労働〉……有 元 伸 子…… (1)

広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設研究紀要投稿・執筆要項

広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設細則

広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設運営委員および研究員（平成25年度）